



羽越線脱線事故から16年 事故を風化させず安全第一の職場をつくり出そう!

2005年12月25日、19時14分頃、JR羽越本線砂越～北余目間を走行中の特急「いなほ14号」が脱線転覆し、5名のお客さまの尊い命が犠牲になり、乗務員を含む33人が重軽傷を負った事故から16年が経過しました。事故の原因については、2008年4月に「航空・鉄道事故調査委員会」から報告書が公表され、「瞬間風速40メートル程度の局所的な突風で車両が傾いた」と結論付け、「予見はほぼ不可能であり、事故は避けられなかったもの」としています。

事故後、風速計や防風柵の設置、システム化など様々な安全対策が進められていますが、現場の状況を最終的に判断するのは現場の人間です。現場の肌感覚で感じた点や気づいた点は些細なことであっても情報を発信し、職場で共有して議論することが重要です。そして、安全に対する意識を高め「気づき」や「感性」を磨き、安全側の判断と行動が実践できる体制を確立しなくてはなりません。

近年は、これまでに経験をしたことがない大雨や台風が多発し、異常気象時代に入ると言われています。いつどこで遭遇するのか分からない中で、例えば、速度規制が実施されていなくても現場の状況を判断し、速度を落として運転したり、おかしいと思ったら列車を止める。また、いつもとは違うと感じたら関係箇所に連絡することで事故の芽を取り除き、未然に防止していくことを繰り返し積み重ねることで安全を守っていくことができます。

過去の悲惨な事故を風化させることなく、内なる運行優先体質と向き合い『命』を守る「安全第一」の職場を構築するために全組合員で議論をつくり出そう!!



「安全第一」で年末年始輸送を全組合員でつくり出そう!